

発表タイトル	ライフサイクルを考慮した都市構造シミュレーションモデル
発表者氏名	中野 友道
所属	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
発表概要	<p>中心市街地の衰退した地方都市をまとまりのあるコンパクトな形態に変え、全世代がバランスよく居住する活気ある街づくりを行うことが近年の都市計画には求められている。その際には必要施設の配置、人々の居住環境への要求をどう考慮していくかといった課題がある。本研究では働き手・子育て・高齢者の3つの世代別エージェントからなる、都市の人口移動の評価を行う都市構造シミュレーションモデルを開発した。シミュレータはエージェントの居住地移動確率・移動可能距離・必要施設の配置を変化させることが可能である。シミュレーションの結果、以下の3つの知見が得られた。(1) 高齢者の日常生活における移動可能距離を広げることは、都市のスプロール化や世代別の居住分離につながる。(2) 高齢者の居住地移動を促進させると、都市のコンパクト化や各世代の居住混合に寄与する。(3) 病院などの高齢者の必要施設は、郊外よりも市街中心部に設置する方が都市のコンパクト化と各世代の居住混合につながる。</p>